

3. 教養教育の学び

3-1 岡山大学ディグリー・ポリシー（DP），教養教育DP要素，学修成果

ディグリー・ポリシー（DP）とは、大学全体や学部・学科等の教育研究上の目的、学位授与の方針を定めたものです。

岡山大学では、大学が育成する人材像を「学位取得のために身につけているべき能力」という面から捉え、7つの5項目から成る大学DPを「学生の目線」で作成しています。さらに各学部では、学部、学科等ごとにもDPを作成していますが、教養教育では教養教育科目を学修することによって育成される人材像（身につけているべき能力）を教養教育DP要素として作成し、大学DPの項目と対応させています。

また、学生が履修する授業科目によって「何ができるようになるか」を明確化するために、観察可能な能力として「学修成果（LCOs = Learner-Centered Outcomes）」とそれに対応する「コア・コンピテンシー」を示しています。

※コア・コンピテンシーとは、教育課程の終了時点で獲得が期待される知識、技術、態度などの能力のことです。岡山大学卒業生が社会で一般的に必要な能力や知識として、12のコンピテンシーに分類しています。

大学DP	教養教育DP要素 (学修目標)	学修成果(LCOs)	学修成果に関連する コア・コンピテンシー
教 養	人間性・倫理観 先人の足跡に学びつつ、豊かな教養の基礎となる人間性・倫理観を身につける	豊かな教養の基礎となる人間性・倫理観を身につけている	倫理観
	創造力・想像力 新たな発想・発見につながる創造力・想像力を磨く	創造・想像のプロセスを通して、新たな発想・発見につなげることができる	問題解決力
	理論的思考・判断力 主体的な問題解決に向けて論理的思考力・判断力を高める	問題に対して論理的解決策を主体的に組み立てることができる	論理的思考力
	幅広い分野への知的関心 自分の目指す専門領域以外の幅広い分野に対して関心を持つ	自分の目指す専門領域以外の幅広い分野に対して関心を寄せることができる	人類の文化、社会と自然に関する知識の理解
	幅広い分野の知的習得 自分の目指す専門領域以外の幅広い分野に関する基礎的知識を身につける	自分の目指す専門領域以外の幅広い分野に関する基礎を身につけている	人類の文化、社会と自然に関する知識の理解
専 門 性	特定分野のための基礎的能力 自分の目指す専門分野のための基礎的学識・技能を身につける	自分の目指す専門分野のための基礎を身につけている	人類の文化、社会と自然に関する知識の理解
情 報 力	情報収集力 多くの情報源の中から、必要とする情報を的確に収集する技能を身につける	自ら進んでエビデンスに基づいた情報を収集することができる	情報リテラシー
	情報活用力 得られた情報を正しく分析・活用する能力を高める	得られた情報を数量的に分析し、適切に活用することができる	数量的スキル
	情報発信力 主張・提案したい情報を適切に発信する能力を身につける	情報の収集・分析・活用から積極的かつ効果的な情報発信ができる	情報リテラシー

3. 教養教育の学び

大学DP	教養教育DP要素 (学修目標)	学修成果(LCOs)	学修成果に関連する コア・コンピテンシー
行動力	主体的行動力 課題の遂行や問題の解決に向けて主体的に行動する力を高める	社会課題に関するテーマを設定し、解決方法を設計できる	問題解決力
	国際感覚 グローバル化に対応した国際感覚を身につける	グローバル社会で、他者と共に生活するための言語的または非言語的な意思疎通ができる	コミュニケーション・スキル
	言語を理解する力 言語の法則を知る能力を身につける	言語の本質を知り、言語を理解することができる	多文化・異文化に関する知識の理解
	言語を運用する力 言語の実際を知る能力を身につける	言語の実際を知り、言語を適切に運用することができる	コミュニケーション・スキル
自己実現力	セルフマネジメント力 目的を達成するために、自らの持てる資質を管理し、適切に運用する力を身につける	目的を達成するために、自らの持てる資質を管理し、適切に運用することができる	自己管理能力
	日常的な自己研鑽力 常に謙虚な姿勢で自らを省察し、自分自身の向上に努める	常に謙虚な姿勢で自らを省察し、自分自身の向上に努めることができる	生涯学習力
	未来を設計する力 自分や社会の未来創造のために、方向性を見出し計画する	個人および社会発展のために、将来に向けたビジョンと戦略を計画できる	市民としての社会的責任

教養教育では、皆さんが自ら考え行動するために必要な知の基本を培うことに重点が置かれています。そのために、教養教育科目には本学ディグリー・ポリシーに掲げる学士力のうち主として【教養】、【行動力】、【情報力】に関連する多彩な授業科目が開設され、次のような科目区分が設定されています。

教養教育科目には6つの科目区分、すなわち、導入教育科目、知的理解科目、実践知・感性科目、汎用的技能と健康科目、言語科目、高年次教養科目があり、それぞれのテーマ・分野・言語ごとに複数の授業科目が開設されています。

学生の皆さんは、所属する学部学科等において定められている卒業要件に従って、それぞれの科目区分から授業科目を選んで履修し、卒業に必要な単位を取得するとともに、履修した授業科目に関連した教養教育DP要素に掲げる学士力を修得します。

3-2 導入教育科目

導入教育とは高等学校から大学への円滑な移行を促すことや、入学後の教育効果をより高めることを目的とした、正規課程に付随した教育プログラムをいいます。

岡山大学では、導入教育として以下の「全学ガイダンス」「学部ガイダンス」「補習教育」を設定しています。

「ガイダンス」

- 1) 全学ガイダンス（「岡山大学入門講座」，「キャリア形成基礎講座」）

学部に関係なく、これから本学で学び社会へ羽ばたくために、初年次に修得する全学必修科目です。岡山大学生としてスタートするために必要な知識を得るための「岡山大学入門講座」と、自分・大学・社会を知り人生について考えるための「キャリア形成基礎講座」の2つの授業科目があります。そ

3. 教養教育の学び

それぞれ全7回0.5単位ずつです。いずれの授業科目も、教養教育に関するコア・コンピテンシーのうち、「教養－倫理観、人類の文化、社会と自然に関する知識の理解」、「自己実現力－自己管理能力、生涯学習力、市民としての社会的責任」と主に関連しています。

2) 学部ガイダンス

各学部が所属学生を対象として開講するもので、大学で主体的かつ能動的に学ぶために必要なスタディ・スキルやコミュニケーション・スキルを学修します。この授業科目は、教養教育に関するコア・コンピテンシーのうち、「教養－人類の文化、社会と自然に関する知識の理解」、「専門性－人類の文化、社会と自然に関する知識の理解」、「情報力－情報リテラシー」と主に関連しています。

「学部ガイダンス」は、各学部あるいは学科・課程・コース単位に当該学部所属学生を対象として開講するもので、他学部学生は履修できません。

「補習教育」

高等学校教育と大学教育の円滑な接続を図るため、「初等数学1」、「初等数学2」、「初等物理学1」、「初等物理学2」、「初等生物学1」、「初等生物学2」の6科目を補習教育科目として開講します。これらの科目は、教養教育に関するコア・コンピテンシーのうち、「教養－幅広い分野に対する関心、幅広い分野の基礎力」と主に関連しています。

1) 開講期・曜日・時限

第1学期	月曜7・8限	初等数学1, 初等生物学1
第1学期	木曜7・8限	初等物理学1, 初等生物学1
第2学期	月曜7・8限	初等数学2, 初等生物学2
第2学期	木曜7・8限	初等物理学2, 初等生物学2

2) 履修対象者・履修対象学部

高等学校において数学Ⅲ、物理、生物を履修していない全学部の学生を対象とします。また、定員に余裕がある場合は既修者の履修も認めます。

3) 単位数及び成績評価

1授業科目の単位数は1単位とし、「修了」の評語をもって成績を評価して単位を授与します。ただし、卒業要件単位としては算入されません。

4) GPA制・上制限・授業評価アンケート

卒業要件単位外の授業科目として取り扱うため、GPA制・上制限の対象とはしません。また、授業の効果を検証するため、授業評価アンケートの対象とします。

3-3 知的理解科目

現代世界が提示する多様な諸問題への関心を呼び起こし、人類が過去から蓄積してきた知の拠り所への学び(古典知)を通じて、自らと世界とのかかわりを常に生き生きと把握する知的理解力を養います。講義科目には、現代的問題に焦点を合わせた科目と、より広範な基礎的テーマの科目を設定しています。なお、知的理解科目の中に次の3つのグループを設定しています。

「現代と社会」

社会のグローバル化のもとに、急激に変貌する現代社会の具体的実像に触れる。とりわけ、政治・経済・社会・文化・思想・宗教等の分野で進行する知識の断片化を克服し、現代社会の全体像を理解する。

「現代と生命」

科学技術の急速な進歩による生命科学の最先端分野での発展を、その研究の歴史的展開を踏まえて具体的に理解する。また、医療生命科学分野の全体像を把握する。

「現代と自然」

科学技術の急速な進展と自然界の解明の現状を理解する。また、人間による自然環境破壊と環境再生の実像に触れ、自然に対する全体的・原理的理解に努める。

3. 教養教育の学び

3-4 実践知・感性科目

時代と社会をリードする行動力と創造力を生み出し、豊かな感性を育むために、実践知と芸術知を養います。

「実践知」

1) 実践型社会連携教育科目

地域社会の企業、行政、NPO、まちづくり等が直面する様々な課題を取り上げ、その解決のために必要な実践知（市民的教養に裏付けられた判断力、リーダーシップ、チーム力、責任・気概）を養います。実社会の様々な関係者と協働して活動し、問題発見や解決のための技能や態度、素養を培うことができます。

実践知科目は、教養教育に関するコア・コンピテンシーのうち、「教養—倫理観、論理的思考力、人間の文化、社会と自然に関する知識の理解」、「情報力—数量的スキル、情報リテラシー、問題解決力」と主に関連しています。

学外の現場での活動を実施する場合、時間割に設定されていない時間帯（土日祝など）に授業時間を振り替えたり、学外での正課活動に関する保険への加入を履修要件としたりしていることがあるので留意してください。また、グループワークを重視する科目では、一定人数の受講登録がなければ閉講になることがあります。現場で受け入れてくれる関係者、チームのメンバーに迷惑がかからぬよう、最後までやり抜くことがなにより重要です。

2) 科目のタイプ分け

実践型社会連携教育科目は、その内容によりいくつかのタイプに分けられます。タイプ分けは、1) 社会連携した実践活動の度合い（それに充当する時間数など）、2) その科目の学習環境がグローバルであるか、で判断します。

次表のとおり、全授業時間のうち現場での実践活動の時間の多いものが「Aタイプ」、少ないものが「Bタイプ」となり、さらに、学修する環境が外国や、国内であっても外国人コミュニティで学ぶといった異文化体験の深さにより、A及びBにG（グローバル）またはG+を冠しています。A、B及びG、G+の組み合わせにより、以下に示す①から⑦のタイプがあり、シラバスの授業形態欄に明記されています。タイプの特性を理解したうえで履修計画を立ててください。

◆ シラバスの「授業形態欄」には、以下のいずれかが表示されています。

「該当せず」

- ①Aタイプ（社会連携の実践活動が授業の1/3以上と多い）
- ②Bタイプ（社会連携の実践活動を一部取り入れている）
- ③G+Aタイプ（学修環境として外国や外国人コミュニティ等に行くAタイプ）
- ④G Aタイプ（外国人との討論など異文化に触れつつ学修するAタイプ）
- ⑤G+Bタイプ（学修環境として外国や外国人コミュニティ等に行くBタイプ）
- ⑥G Bタイプ（外国人との討論など異文化に触れつつ学修するBタイプ）
- ⑦Cタイプ（実習や演習として実践的だが社会連携したものでない）

表. タイプ分けの基本

判断基準	記号	解説
社会連携した実践活動の度合い	A	a) 地域や企業等の現場に出向き、 b) その時間数が全授業時間数の1/3以上 c) 成果報告会を開催する（学外の関係者が参加し、授業自体の評価をすることが望ましい） の3条件を満たす。
	B	地域や企業等の現場に出向く、または現場の課題を抱える当事者とのディスカッション等の活動が1回以上ある。ただし、単に外部講師が講義するだけの授業は対象としない。

3. 教養教育の学び

判断基準	記号	解説
学修環境としてのグローバル要素の付加	G ⁺	社会連携して学修する現場が外国または国内の外国人コミュニティであるなど、異文化の環境に深く入っていく授業。
	G	留学生と日本人学生が協同することにより異文化理解を進めつつ学ぶ授業、海外とのテレビ会議など多言語で討論が行われる授業など。

「芸術知」

「芸術知」は「実践知・感性」関連の授業科目であり、教養教育科目授業時間及びシラバスで指定された時間帯で履修することができます。この科目群は、優れた芸術作品の能動的な鑑賞やアート創造の現場への参加等を通して、創造性と豊かな感性を養います。

芸術知科目は、教養教育に関するコア・コンピテンシーのうち、「教養－倫理観，論理的思考力，人類の文化、社会と自然に関する知識の理解」，「行動力－問題解決力，コミュニケーション・スキル」と主に関連しています。

3－5 汎用的技能と健康科目

学問の追求に加えて、学生生活を充実させて社会へ向かうために必要な知識・技術及び能力を養います。また、これらの土台ともいえる健全な心身を築きます。

「情報教育」

大学教育における研究や教育をはじめ、社会人として必須である情報リテラシー技術やICT (Information & Communication Technology) 活用能力を修得します。

1) 情報リテラシー系科目

情報リテラシー系科目は、教養教育に関するコア・コンピテンシーのうち、「情報力－数量的スキル，情報リテラシー」に加え、「教養－人間の文化、社会と自然に関する知識の理解」，「行動力－問題解決力」に関連しています。

情報化社会においてインターネットを有効に活用するための知識、情報セキュリティ被害にあわないためのセキュリティ対応能力、個人情報漏洩防止のための知識などの幅広い情報リテラシー能力と正しい情報マナーを身につけることを目標にします。

「情報リテラシー」系科目は、以下の3科目により構成し、すべて実習を伴う授業です。

- ① 情報処理入門1 (情報機器の操作を含む) では、学生生活に必須の各種ICTサービスの活用方法，ICT機器の設定方法，個人情報の安全・安心な取り扱い能力，情報セキュリティ被害にあわないセキュリティ対応能力等の情報リテラシー能力を修得します。
- ② 情報処理入門2 (情報機器の操作を含む) では、マイクロソフト社のワードプロセッサ，表計算ソフト，プレゼンテーション作成ソフトの利用方法を学習します。大学生活に必要なレポート作成，数値解析やプレゼンテーションのための資料の作成を，PCを用いた実習形式で修得します。
- ③ 情報処理入門3 (情報機器の操作を含む) では，ICTのハードウェア，ソフトウェア及びインターネットに関する高度な技術を学修します。これにより，情報機器，インターネットをより有効に利活用するための情報リテラシー能力の向上を図ります。

上記の科目は、授業における課題の提供や小テストの実施，事前，事後の学習に授業支援システム“Moodle”を利用します。また，個人所有のPCを使用しますので，事前にPCの環境設定を完了して，授業に臨んでください。なお，情報処理入門1では，入学後に配付されるパスワード通知書や教科書付属の日経パソコンEduライセンスカードを使用します(教科書についてはWebシラバスで確認してください)。

3. 教養教育の学び

情報リテラシー科目のうち、「情報処理入門1（情報機器の操作を含む）」は全学必修科目です。この授業科目は、あらかじめ学部（学科・課程）によってクラス分けを行って開講します。指定以外のクラスを履修することはできません。単位を修得できなかった場合の再履修は、1年次の第4学期に1クラス開講しますので指定時間に再履修してください。

本科目は教職課程で必須の科目であり、最低2科目、2単位の取得が必要になります。

2) ICT (Information & Communication Technology) 系科目

ICT系科目は、教養教育に関するコア・コンピテンシーのうち、「情報力ー情報リテラシー、数量的スキル」と主に関連しています。これにより、インターネットの安全・安心な活用、情報機器の効率的な活用のための知識が修得できます。

ICT系科目は、情報リテラシー系科目を発展した、より高度な技術を学習します。主に1年次と2年次に向けて開講します。

「数理・データサイエンス」

今日、情報通信技術の普及により大量のデータが収集・蓄積されていますが、それらは活用されなければ意味をもつ情報とはなりません。このようなデータを対象とする学問分野がデータサイエンスです。

数理・データサイエンス科目のうち、「数理・データサイエンスの基礎」は、現代の基礎教養として欠かせない情報学・統計学・数理科学の3つを体系的に学ぶためのものであり、授業では、データサイエンスの基盤となる統計および数理の基礎と、データサイエンスの応用事例を修得し、さらに機械学習の概念を学んで、データサイエンスの果たす役割を概観します。この科目に関連した「数理・データサイエンスの基礎演習A」では実際にソフトウェアを利用し基礎で学んだ概念を学びます。また、「データ表現とアルゴリズム」ではデータサイエンスに必要な数理的な知識、アルゴリズムの基礎知識をソフトウェアを利用しながら学びます。

さらに「統計学の基礎」と「データ分析の基礎」が開講されており統計学の基礎を学びます。また、「数理という道具を手に入れよう」では、数学がどのように有用な道具になりうるかを体験的に学びます。

数理・データサイエンス科目は、教養教育に関するコア・コンピテンシーのうち、「教養ー倫理観、問題解決力、論理的思考力、人間の文化、社会と自然に関する知識の理解」、「情報力ー情報リテラシー、数量的スキル」、「行動力ー問題解決力」と主に関連しています。数理・データサイエンス科目のうち、「数理・データサイエンスの基礎」は、あらかじめ学部（学科・課程）によってクラス分けを行って開講します。指定以外のクラスを履修することはできません。

「キャリア教育」

学生生活を充実させるとともに、社会人になるうえで必要な知識・能力を修得します。

特に「キャリアデザイン」という複数のテーマ別授業科目があります。他者とのコミュニケーションを円滑にできるようになるための「Ⅰ. コミュニケーション力に磨きをかける」や「Ⅱ. つなげる！つながる！みんなのキャリア」、社会にある様々な課題解決に取り組むための「Ⅲ. プロジェクトを企画し実行する力を養う」、企業や業界に関する知識を獲得して将来設計に生かすための「Ⅳ. 企業を知り、業界を知る」や「Ⅴ. 職業選択と自己実現」などで構成されています。

これらの授業科目は、教養教育に関するコア・コンピテンシーのうち「情報力ー情報リテラシー、数量的スキル」、「行動力ー問題解決力」、「自己実現力ー自己管理力、生涯学習力、市民としての社会的責任」と主に関連しています。

「健康・スポーツ科学」

生命・保健科学関連の授業科目で、教養教育科目授業時間表及びシラバスで指定された時間帯で履修することができます。教養教育に関するコア・コンピテンシーのうち、主に「教養ー人間の文化、社会と自然に関する知識の理解」、「教養ー問題解決力」に関連しています。

1) 健康・スポーツ科学

健康・スポーツ科学は抽選があり、1～4学期に指定された時限で開講します。

3. 教養教育の学び

健康・スポーツ科学Cは抽選がなく、通年授業で、毎月1回、水曜日10、11限に開講するスポーツ医科学の専門家によるオムニバス形式の授業です。

- 2) するスポーツ演習 ※抽選あり
通常時間帯に各種スポーツ実技に加えて、e-ラーニング (Moodle) を活用して運動プログラムを作成し、授業以外においても運動を実践する授業です。初回の授業はシラバス記載の場所でおこないます。
- 3) みるスポーツ演習 ※抽選あり
みるスポーツ演習B-IおよびB-IIは、3、4学期連続履修を前提とした授業です。開講は月曜日7、8限です。調査演習形式の実践型科目です。
みるスポーツ演習は、みるスポーツに関わる調査研究テーマを履修者が設定し、テーマに基づきグループを編成し、調査計画を立案し、実際に調査に出かけ、報告書をまとめます。
- 4) 支えるスポーツ演習 ※抽選なし
支えるスポーツ演習Aは、特定の高校において運動部活動の指導・支援をおこなう実践型科目です。履修希望者は初回のオリエンテーションに必ず参加してください。

「アカデミック・ライティング」

ライティングは、専攻分野を問わず、すべての知的活動の基本的な技量、コミュニケーション能力となります。さらに、学術的な場面のみならず、学内外の日常的な場面においても中核となる能力です。したがって、ライティングにより獲得される思考力とコミュニケーション能力は、大学を離れたのちにも生涯を通して極めて重要な拠り所となるものと考えられます。

アカデミック・ライティングでは、論文やレポートを書くための技量のみではなく、思考力を伸ばしたり論理的に表現したりすることを学び、自分で論理的に思考したことを書くことにより表現するコミュニケーション能力を養うことを目的としています。

この科目では、以下のように論証型論文・レポートの基礎を理解し実践できるようになることを目標としています。

- ・自分の考えや意見などを正確に、意図した相手に伝える文章を書くことができる。
- ・事実や根拠などを明らかにした論理的な文章を書くことができる。
- ・文字や表記に注意して文章の体裁を整えることができる。

これらのライティングの能力は、教員の細やかな指導と学生の書き直しをする反復作業によってゆっくりと醸成されます。そこでは教員・学生間の対話と信頼関係が必要であり、ディスカッションや相互評価が不可欠な活動となります。

なお、教養教育に関するコア・コンピテンシーのうち、「教養－論理的思考力」、「行動力－コミュニケーション・スキル」、「情報力－情報リテラシー、数量的スキル」と主に関連しています。

3－6 言語科目

言語の深い修得を通じて、言語の持つ価値や世界観を理解し、グローバル社会を洞察する力や社会に情報を発信するコミュニケーション力を養う。

「英語」

英語には、英語（ネイティブ）、種別英語、基礎英語、プレ上級英語、上級英語があり、各学部学科の卒業要件に従って履修することになります。

言語科目の英語は、教養教育に関するコア・コンピテンシーのうち、「行動力－多文化・異文化に関する知識の理解、コミュニケーション・スキル」と主に関連しています。

3. 教養教育の学び

1) 英語 (ネイティブ)

英語 (ネイティブ) は、1年次に開講されます。ネイティブスピーカーが英語のみで行う授業で、英語コミュニケーション能力を身につける機会を提供します。

単位未修得による再履修は、授業時間割及びシラバスの指示に基づき、希望する科目の担当教員の履修許可を受けて履修してください。

2) 種別英語

種別英語は、英語教員が担当する授業で、2年次に開講され、4種別があります。一度履修し、単位未修得となった場合の再履修は、授業時間割及びシラバスの指示に基づき、希望する科目の担当教員の履修許可を受けて履修してください。

授業科目名	授業概要
英語 (オラコン)	英語のオーラルコミュニケーション (リスニング, スピーキング) 能力を伸ばすことを目的とします。ディクテーション, コンプリヘンション, ディベート, ディスカッション等の幅広い内容があります。教材としては、テレビ・ラジオのニュース, 映画等も含まれます。
英語 (作文・文法)	既習の文法事項を復習し、定着させつつ、英語による表現能力の向上をはかることを目的とします。 論文, エッセイ, 手紙, E-mail等の書き方から日常会話に近い口語的表現の指導までが含まれます。
英語 (読解)	人文分野, 社会分野及び自然分野の教材を用いて、英語を読む能力を磨くことを目的とします。教材としては、言語, 歴史, 異文化理解, 社会科学, 自然科学等に関するエッセイやインターネット上の情報, あるいは新聞, 雑誌等の時事英語, 科学技術英語や医療英語の教科書等も含まれます。
英語 (検定)	実用英語検定, TOEIC, TOEFL等, 外部検定試験に合わせた練習を行い、実用的な英語力の養成を目的とします。教材としては、これらの試験に対応した問題集等も含まれます。

3) 基礎英語 ※ 同一名科目の繰り返し履修可

基礎英語は、大学入学までの英語学習時間が不足した学生のための授業です。「修了」の評語をもって単位を授与し、卒業要件単位としては算入されません。

4) プレ上級英語, 上級英語 ※ 同一名科目の繰り返し履修可

プレ上級英語, 上級英語は、学力はあるがもう一度英語を学び直したい学生を含め、ステップアップを目指す学生のために発展的な内容を教えることをねらいとしています。

履修を希望する学生は、必ず最初の授業に出席し、担当教員から履修の許可を受けてください。

「初修外国語」

初めて学ぶ外国語では、7つの言語が開講されています。

「ドイツ語」, 「フランス語」, 「中国語」の「初級」は夜間開講, それ以外の授業は昼間開講です。

ドイツ語, フランス語, 中国語, 韓国語, ロシア語, スペイン語, イタリア語

言語科目の各初修外国語は、教養教育に関するコア・コンピテンシーのうち、初級 (またはベーシック) については「教養—論理的思考力」, 「行動力—多文化, 異文化に関する知識の理解, コミュニケーション・スキル」と主に関連しています。また、中級については「行動力—多文化, 異文化に関する知識の理解, コミュニケーション・スキル」, 「自己実現力—生涯学習力」と主に関連しています。

■[夜間主コース時間帯開講の初修外国語(ドイツ語, フランス語, 中国語の「初級」)]

初級

初めて履修する場合は、授業時間表の指定及びシラバスの指示に基づいて、前期と後期を通じて同一科目・時限・担当教員の授業科目 (前期=初級Ⅰ, 後期=初級Ⅱ) を履修してください。

3. 教養教育の学び

■[昼間開講の初修外国語(韓国語「初級」および「中級」、ドイツ語、フランス語、中国語の「中級」)]

1) 韓国語初級

ア. 初めて履修する場合は、教養教育科目授業時間表の「履修対象の学部、学科等」欄およびシラバスの指示に基づいて、原則として第1学期から第4学期まで同一クラス、つまり同一科目・担当教員の授業科目(第1学期=初級Ⅰ-1, 第2学期=初級Ⅰ-2, 第3学期=初級Ⅱ-1, 第4学期=初級Ⅱ-2)を履修してください。

なお、1年次生を対象に4月に履修説明会を実施します。履修説明会の際に履修希望調査を行い、第1学期に開講される科目はそれに基づきクラス分けを行いますので、履修を希望する新入生は必ず参加してください。履修説明会に参加しないと、履修ができない場合があります。【動画にてオンデマンド配信】

イ. 2年次生以上が月曜日および木曜日に週2回開講される「初級」授業の履修を希望する場合には、1年次生のクラス分けの結果、定員に余裕があるクラスに限り、授業担当教員の許可を得れば履修することができます。火曜日又は金曜日に開講される科目は事前のクラス分けを行いませんので、直接履修登録することができます。

ウ. 2つの授業タイプがありますので選んで履修してください。

【1】50分授業を週2回行う授業：このタイプの授業は、同じ語種の下記【2】の授業との同時履修はできません。また、同じ語種の下記【2】の科目を単位修得している場合も履修できません。詳細は時間割表ページ開講授業科目一覧の重複履修欄を参照してください。

【2】50分授業×2時限を週2回行い集中的に学ぶ「インテンシブ」の授業：このタイプの授業は、同じ語種の上記【1】の授業との同時履修はできません。また、同じ語種の上記【1】の科目を単位修得している場合も履修できません。詳細は時間割表ページ開講授業科目一覧の重複履修欄を参照してください。

注意：対象学生が指定されている場合はその授業タイプしか履修できません。

2) 中級 ※ 同一科目の繰り返し履修可

1年次生でも、授業担当教員と相談の上、履修することができます。

履修を希望する者は、初回の授業に出席して、担当教員から履修の許可を受けてください。

■[昼間開講の初修外国語(ロシア語・スペイン語・イタリア語)]

ベーシック (週1回のみ開講)

ア. 開講曜日・時間帯は以下の通りです。

ロシア語ベーシック1～4 : 火曜3限・4限

スペイン語ベーシック1～4 : 月曜7限・8限

イタリア語ベーシック1～4 : 金曜7限・8限

イ. 再履修(一度履修したが、単位修得できなかった)の場合には、翌年度の同一授業科目を履修してください。

3-7 高年次教養科目

専門的素養を習得した3, 4年次生(高年次生)に対して、専門教育以外に必要とされる知識や能力を与える教養教育科目を高年次教養科目として設定し、学生の習熟度と関心に応じた段階的教養教育を実施します。

高年次教養科目の授業は、基本的に各学部の専門教育の時間帯に実施されます。

履修に当たっては、次の各事項に留意してください。

1) 一部の科目については、開講学部以外の学生の履修を認めています。

所属学部が開講している以外の「高年次教養科目」を履修する場合、修得した単位を教養教育科目の卒業要件にどのように算入するか事前に所属学部の掲示板等でよく確認して履修してください。

3. 教養教育の学び

- 2) 指定された一部の科目については、教育上の効果や円滑な授業運営を図るため、事前に履修希望登録を行い、履修希望者多数の場合には、抽選を実施し履修者を決定します。開講学部以外の学生で履修を希望する場合は、必ず登録してください。登録期間や方法の詳細については、一般教育棟A棟の掲示板を確認してください。